

職人通信

大阪府が基幹技能者活用

大阪府が建築工事2件で基幹技能者と一級技能士を活用する。基幹技能者の活用を本格実施している長崎県に続き、昨年末には東京都が公園整備で基幹技能者の活用を試行しており、大阪府が試行したことにより、地方自治体の工事での基幹技能者の活用に弾みが付きそうだ。

大阪府が基幹技能者の配置を求めるのは「府立高等職業技術専門校北部校(仮称)新築工事」と「府立視覚支援学校改築工事」の一般競争入札2件。基幹技能者らの専門工事業有資格者の配置評価を盛り込んだ総

合評価方式を初めて採用した。品質の確保や施工の向上、現場従事技能者の育成に加え、技能者を確保する企業への育成を図っていく必要があるとの考えから、試行的に実施する。施工計画

工事2件で配置に加点

にかかる技術提案書で、工事の品質向上策として基幹技能者などの活用について求めた。

評価対象となっているのは、基幹技能者が「とび・土工」「型枠」「コンクリート圧送」「鉄筋」「圧接

「左官」「塗装」「外壁仕上」「サッシ」「防水」の10職種。一級技能士は「とび・土工」「建築大工」「畳」「左官」「塗装」「建具」「サッシ」「防水(シーリング)」

技能士については、「コンクリート圧送」は特記仕様書に明示されているため評価外とし、「鉄筋」「型枠」「防水」「とび・土工」についても特記仕様書で配置を義務付けているため、2人目のみが加点対象となる。

同部担当者は「試行の結果をもって今後の運用を検討する」としており、「現代の名工」などといった対象の拡大についても未定。2件の工事の施工については、現在、事業者選定を進めている。

(アスファルト)」「鉄筋」「型枠」の10職種。加算点の加算方式は、基幹技能者が各職種1人までとし、1人当たり0.2点。

ちづくり部発注工事のうち、技術提案型総合評価落札方式を採用する案件で、工事内容によって試行するか否かを判断するとしているが、今のところ今年度の発注案件のうち今回の2件以外に試行は予定していない。

一級技能士は1人当たり0.1点を付与し、最大1点を加算する。ただし、一級

概要は、高等職業技術専門校北部校(仮称)の北棟がRC造4階建て、南棟がS造3階建て。総延べ1万0400平方メートルで、工期は2013年1月31日まで。

また、視覚支援学校は、校舎棟がRC一部S造5階建て延べ9469平方メートル、寄宿舎棟がRC造3階建て延べ859平方メートル。工期は14年12月19日までとなっている。